

会 議 録

会議の名称	第2回川越市観光振興計画審議会
開催日時	令和7年8月18日（月） 午前10時00分 開会 ・ 正午 閉会
開催場所	川越市役所7階 第5委員会室
会長氏名	獨協大学外国語学部 教授 鈴木 涼太郎
出席者・ 欠席者 氏名（人数）	別紙委員名簿のとおり
傍聴人	なし
事務局職員 職・氏名	岸野部長、榎本課長、関根副課長、杉本副主幹、加藤副主幹、 大新井主査、宮川主任、中村主任
会議 次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）次期川越市観光振興計画の骨子（案）について 4 その他 5 閉会
配布資料	1 次第 2 出席者名簿 3 資料1：次期川越市観光振興計画 骨子（案） 4 参考1：変更点まとめ 5 参考2：意見交換会意見まとめ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	1 開会 2 あいさつ ・谷島委員のあいさつ ・鈴木会長のあいさつ ・会議及び会議録の公開について 鈴木会長より ①会議は原則公開すること ②市民等への傍聴を認め、定員を5人とする ③会議録を市HPに公開し、発言は「会長」「副会長」「委員」で記録すること 以上を委員に諮り、承認される。 3 議事 (1) 次期川越市観光振興計画の骨子(案)について
事務局	<資料1、参考1、2を基に説明>
委員	資料1 P2の第3章の課題について加えた方がよいと思うものを述べたい ④の地域内外とはどこを示しているのか。②のマナー問題だが、ゴミのポイ捨てについては、観光地にゴミ箱が十分に設置されていないのが問題ではないかと考える。ゴミのポイ捨ては必ずしもマナー問題と同じカテゴリーではない。また、オーバーツーリズムの視点で見ると、地域外の資本が進出してきており、そのことによってメリットもあるものの、一方でどこの観光地に行っても新鮮味が欠けるなど問題がある。これらのことについて課題として言及した方がよい。
委員	資料1 P2の第3章の課題について伺いたい。一般的には、目指す姿や目標、目的などを達成するための障害が課題であると考えている。だとすれば、第4章が目標や目的であって、それを先にしてから第3章の課題を記載した方がよいのではないかと考える。
事務局	資料1 P1の全体構成をご覧いただきたい。行政の計画の構成

	としては、計画の目的・位置付け・期間が最初にある。次に標準的なパターンとして、概況や現状分析をして、どのような課題があるのかが示される構成となっている。従って次期計画でも現状分析と課題抽出を経て、基本理念、基本方針を案として示している。行政の考えとしては、現状、分析、課題を細かく示し、基本理念・基本方針・施策・取組を構成していきたいと考える。 次に課題ではなく原因ではないかとの指摘であるが、例えば③デジタル技術の更なる活用について、今の観光客はSNSを活用して観光情報を取得している。SNSについては我々の不足している部分であると見えてきたので、第3章の課題に記載をした。
会長	課題という言葉の定義をどのように設定するのかの問題が大きいと考える。振興計画では市民の皆様が理解しやすいよう説明を丁寧にしていただきたい。
委員	この審議会の目的は、次期計画の策定だと思われる。そこで10年前に策定した第2次観光振興計画について、前回の目標や課題、それらの達成度について伺いたい。また、次期計画は時流を反映したものになると思われるが、現在の課題は人手不足と高齢化である。様々なことを考えても、人がいなければできない。このことを次期計画に反映させる必要がある。 第2次観光振興計画で達成出来なかった事業や課題などについて改めて事務局より総括してほしい。
事務局	第2次観光振興計画の進捗については概ね順調に進んでいる。関係団体と連携した川越の魅力発信や情報発信、観光環境の整備、住民と観光客の共存に関連する施策については、達成状況がやや低いため、次期計画ではこれらを改善できるように進めていく。
委員	現計画の基本理念やコンセプトを教えてほしい。
事務局	現計画の基本理念は「世界に発信しよう！EDO が粹づくまち小江戸川越」である。コンセプトとして基本方針を4つ定めており、1つ目が「新たな観光を創りだそう」、2つ目が「外国人が一人でも楽しめる川越を演出しよう」、3つ目が「安心して観光を楽しめる環境を作ろう」、4つ目が「市民の視点で観光まちづくりを進めよう」である。

委員	10年前から外国人をターゲットにしたコンセプトがあったと思われる。また、新たな観光を作ろうとしているようだが、それが今どのように繋がっているのか、市民のことについては、上手くいかなかったため次期計画でも書かれていると考える。
会長	前回の基本理念では観光客を呼び込むことに重点が置かれており、インバウンドに関する取り組みも前面に出ていた。第1回審議会でも話があったが、インバウンドを含め観光客の受け入れ態勢が十分ではなく、市民の生活も守らなければいけない。そのような状況を踏まえ、前回の人を呼び込む基本理念から、今回の市民にも観光客にも配慮した基本理念へと方針が転換されたと理解していただきたい。
委員	今、会長が話したことを次期計画に記載出来ればと思う。 新たな目標を達成したら、新たな課題が出てきた。その課題を次期計画で解決していくと伝えられればと考える。
会長	おっしゃるとおりで、単に数字でどれくらい達成しただけではなく、達成したけど課題も生まれ、それらを解決するための次期計画であるといったストーリーを作れば、市民の方にも理解してもらいやすいのではないかと考える。
委員	観光客の総数が700万人を超えて、外国人観光客も70万人となり、観光客が増えてきたからこそオーバーツーリズムなどの問題も出てきた。一番の問題は市民が観光客に悪印象を抱きサービスが低下してしまうことである。観光客は川越を観光しても深堀りすることなく、表面的な観光で終わってしまい、飽きられてしまう。このことが一番のオーバーツーリズムからくる問題ではないか。その中で「ともにつなぐ」といった基本理念のもと、市民、観光客、事業者の三方に対して発信していこうという姿勢は良いと考える。観光客に制限をかけるのではなく、市民が街を愛する姿勢を見せることで、観光客に制限をかけることなく問題は解決できるものだと考える。三方にとって有益なものとして、DMOでは、「川越観光のころえ」づくり事業に取り組んでおり、住民、来訪者、事業者の三者で調査研究を行っている。そのような取り組みを次期計画の取組に加えてほしい。
事務局	どのレベルで入れるか、施策または取組で入れるかを今後検討していきたいと考える。

会長	資料１Ｐ３の第５章の基本方針２「観光を通じたシビックプライドの向上」に、一方的に観光客に制限をかけるのではなく、市民が川越を理解して、そして誇りを持って接することで、観光客に対しても自然とより良いマナーを求めることができるようになるといった内容が含まれている。今指摘された事項は何らかの形で次期計画に含めるべきではないか。
委員	資料１Ｐ２の第４章のイメージ図について、市民、事業者、観光客の三者であるが、ここに川越市の立ち位置を示した方が良いのではないか。市民であって事業者であるといった場合もある。自社の予算を使ってゴミ箱を作ったり、英語版のマップを作ったり、川越の街を良くするために市民のボランティアとは別に事業に含めて実施している事業者が非常に多い印象がある。例えばそのような取り組みをウェブサイト等で紹介するなどすれば、個人や事業者の川越の観光に対する姿勢が良く見える。では、このような取り組みを発信するのはどこであるかを考えたときに個人や事業者ではなく川越市であるべきだと思う。そのようなことからイメージ図に川越市がいるべきだと思う。
会長	非常に重要な指摘である。前半の指摘にあった川越市の位置付けについては適切に示していただきたい。後半の指摘についても、市民であり事業者である立場の方々の存在を無視できない。また市外在住者で、観光客ではないけれども川越の観光に関わっている人もいる。現在の図が悪いのではなく、この図にプラスアルファしてもらえればより良い図になると考える。
委員	基本理念で「ともにつなぐ 小江戸川越らしさを未来へ」という言葉が大きく取り上げられ、非常に良いと感じた。具体的な川越らしさとは、計画のどこに記載されるのか。
事務局	小江戸川越らしさとは、市民にとって地域の歴史、文化、誇り、日常の楽しみ、観光客にとっては江戸情緒溢れる町並みや伝統文化、まつりなどの体験、川越ならではの食、事業者にとっては地域の魅力を活かした商品やサービスの提供、ブランド価値の創造や向上を指している。これらの魅力を次世代に引き継ぐことが次期計画には必要であると思う。
委員	更に具体的なことは資料に記載されているか。

事務局	小江戸川越らしさについて、具体的な内容を提示できるよう、次回の審議会までに事務局でブラッシュアップしたい。
委員	基本理念は非常に良い言葉だと思う。次回の審議会で「小江戸川越らしさを未来へ」をいくつか提示いただけるとのことだが、現状の「小江戸川越らしさ」から未来の「小江戸川越らしさ」に飛躍・発展といった説明・提示になるのか。川越らしさはなんとなくイメージできるが、未来へとなるとイメージが難しい。
事務局	未来へについては、資料１Ｐ２のコンセプトにも記載のとおり、市民・観光客・事業者が一体となって、次世代に受け継いでいくとの想いを込めてこの言葉を選んだ。もしこの場で具体的にこのようなことが必要ではないか、と言った意見があれば、発言いただければ幸いである。
会長	「川越らしさ」とは一つ明確に決まったものではなく、それぞれ立場の人々が考えていることを広く取り込んだ形で計画に盛り込むことができればよいのではないかな。
副会長	川越は何であるかと考えたときに、昔は城下町であって、それが小江戸に繋がっていると思う。そのことを上手く取り込めていければと思う。２０年以上前から栃木市と佐原市で小江戸サミットを行っているが、川越には蔵があり舟運があり、そのような後世に繋がっていくようなものが必要と考える。
委員	先日大型ショッピングセンターに出かけたが、イベント会場もあれば、ブランド商品を取り扱っている店舗もあり、何でもあって家族連れが楽しそうにしていた。日本中至るところにそのような施設はある。しかし、川越ならではの川越に来ることで出来る体験があるのではないかと考えた。なお、鍛冶町広場にゴミ箱を設置したが、その後ごみのポイ捨ては減ったのか。本日の審議会前に一番街を通ってきたが、人がほとんどいなかった。やはり川越は限られた時間帯に観光客が集中しており、観光客が分散できれば良いと改めて感じた。
会長	鍛冶町広場のゴミ箱について、事務局から報告をお願いしたい。
事務局	鍛冶町広場の他に小江戸蔵里にもスマートゴミ箱が設置され

	た。ゴミ箱設置後、観光課の方で現地調査を行っており、ポイ捨てはかなり減ったと認識している。特に連休明けに調査を行ったが、以前のようにごみが散乱している状況は減ったと思われる。ゴールデンウィークに一番街の歩行者天国を実施しており、その際に鍛冶町広場のゴミ箱に観光課の職員を配置し、ごみの分別を行った。
会長	ショッピングモールの話が出たが、重要伝統的建造物群保存地区に、全国チェーンの食べ歩きの実業者がどんどん進出してきている状況である。結果、皮肉なことに、全国各地どこに行っても同じような観光地になってしまっている。食べ歩きが楽しめる観光地として観光客が川越に来てくれるのは喜ばしいことであるが、川越の観光地としての独自性がなくなってきてしまっている。そのことを考えたときに、川越は城下町であり、川越藩、武蔵野の新田開発とともに川越の街が出来上がってきたことを忘れずに観光発信を行っていくことが、「川越らしさ」の一つではないかと考える。
会長	基本理念について、いくつか意見が出たが、この内容で進めていくことで良いか。
全員	異議なし。
会長	それでは資料１Ｐ３の第５章について広く意見をいただきたい。なお、第５章については本日の審議会で確定ではなく、本日の意見を基に事務局で組み直していくものである。
会長	基本方針４に「関係人口」というキーワードが出てきたことが非常に重要であると考えている。先日の意見交換会でも川越の出身者や大学進学などで一時的に川越に在住する人をもっと取り込もうという意見があった。こちらについて、より幅広い施策や取組があれば良いと考える。
委員	DMO川越では、川越ファンクラブを作ろうと考えている。サポーターという言葉でも当てはまるかもしれないが、川越に興味を持っている人を集め、川越の情報を伝えることができればと考える。街のイベントや川越まつりの現状などを伝えて、川越のために手を貸したいと言った人を増やせれば、川越市民になってくれるかもしれないし、そういったファンを増やしていくことで、

	関係人口の増加に寄与できるのではないかと考えている。
委員	確認だが、資料１Ｐ３に記載のある取組例は現計画の内容を例として記載していると認識してよいか。真新しさがなく、目玉となる取組が入ってくると良いのではと感じる。そのことが関係人口作りにも繋がるのではないか。また、以前DMO川越とともに、市民一人一人が観光振興のために何ができるかを考えてもらう機会を作った。様々な意見が出てきたが、それらをチャレンジできる場を設けてほしい。それも関係人口の増加に繋がって来る。チャレンジできる場があれば積極的に意見やアイデアが出ると思うし、住民も楽しみにすると考える。次期計画で目玉となる取組とチャレンジを推進するような取組が入って来れば良いのではないかと考える。
会長	前回の計画では市民が観光の担い手になるような施策がなかったため、今回新たに入れることができればよいのではないか。
委員	様々な取組例が記載されているが、これらの取組を誰が行うのか。資料１Ｐ４の第６章に役割分担があるが、取組を各団体に持ち帰ってもらい、自分たちは何を実施するかを考えてもらう必要がある。多くの取組があり、全て実施できなくても、一部でも実施できれば、今より良くなると考える。審議会が一番大事なことは、関連団体で直接話しができることである。第６章の連携をしっかりと行うことが、今までなかったことではないか。
会長	誰がやるか、どのように連携をとるかが重要になってくるので、次回以降検討十分に検討していただきたい。
委員	先ほども質問があったと思うが、第５章に記載されている取組は過去の計画の事業から抜粋したもので、今後追加されると考えて良いのか。
事務局	施策や取組との繋がりがイメージしやすいように、現計画、第二次観光振興計画改訂版の事業を一例として記載している。基本方針については、本日、ある程度固めたいと考えている。基本方針の４つは前回とはかなり変更されている。施策に関してもある程度固めたいが、今日決まったからと言って、次回以降全く変えられないというものではない。取組に関しては、柔軟に変えていければと考えている。

委員	基本理念の「住んでよし、訪れてよし、営んでよし」が施策や取組のどれに該当するか分かるようになっていた方が良い。また、「訪れてよし」の施策が多いような印象を受けた。もっと「住んでよし」「営んでよし」の施策があった方が良いのではないかな。
会長	事務局との事前打ち合わせの際にも、同じ指摘をした。基本方針が4つあるが、基本方針1「持続可能な観光地域づくり」については、次期計画で特に重要な基本方針であり、基本方針2は「住んでよし」が中心、基本方針3は「訪れてよし」が中心、基本方針4は「営んでよし」が中心として、緩やかにまとまっている。指摘のとおり、もう少し分かりやすく整理したい。また、「住んでよし」の施策や取組については、現在の計画ではほとんどなく、ほぼゼロから作り上げているので、基本方針2については、今後の審議会で委員の皆様から意見をいただきながら、内容をより充実させていきたい。
委員	マナー及びごみ問題に関する取組は、第5章ではどこに該当するのか。また、基本方針3の施策12に関連することだが、先日京都の事業者から連絡があった。京都を中心に事業をしており、何故川越なのか伺うと、SNSやホームページから来たとのことだった。やはり、SNSなどを活用したPRが重要になってくる。ただのアプリだから取り敢えず掲載すれば良いという考えを超えて、PRのツールとして、研究する必要がある。最近はウェブサイトを通しての連絡が中心となっており、取組12に関しては予算をかけてでもやるべきであると考えている。また、全体に関わることで、どの程度の予算をかけるか不明だが、節約して最大限の効果を出す、経営的な思考がないと統一感が図れないと考える。例えば、川越まつりの動画を各所が50万円かけて作るのではなく、3つの部署が集まり、100万円かけて動画を作成し、残りの50万円をPRするための費用に充てるような方法を、次期計画の5年間でどこかが取りまとめしなければならないと考える。どこが取りまとめるか第6章で役割分担を明確にする必要があると考える。
会長	情報の一元化は第1回審議会、意見交換会でも話しが出ていた。是非とも役割分担のことも含めて進めてもらいたい。
事務局	資金の話については、使い方が分かれていると効率的ではないし、散財してしまう。そのため、予算の使い方、情報発信の仕方、

	例えば、市が利用しているデータ、観光協会が利用しているデータ、DMOが利用しているデータなどを一元化して、プラットフォーム化するなどの事業が必要であると改めて感じた。役割分担の中で話しができればと考えている。
会長	第5章の取組については、内容をより具体的にするとともに、充実させて、継続して審議していきたい。
委員	基本方針3の施策9「回遊性の向上と滞在時間の延長」の取組例「郊外エリア観光資源活用促進事業」について伺いたい。川越でクラインガルテンを実施しているなどあるが、他はもっと進んでおり、やはり川越は城下町であったことから川越藩という括りで川越観光してもらったほうが、遠くのエリアまで足を伸ばしてもらえるのではないかな。例えば、世界農業遺産のことが載っていない。400年前から行われている農業が現在も続いていることは宝であるし、郊外エリアに行ってもらうにしても、単にさつまいもの産地として紹介するだけでなく、世界農業遺産は川越藩で行っていたなどと発信することで、川越藩としての郊外エリアへの広げ方があると、城下町川越に合っていると思う。
委員	KG Iについて、フォロワー数やダウンロード数など、前回の計画では実施していないKG Iを新たな数値目標として掲げた方がよい
会長	前回の計画時には、これほどまでにSNSが大きな影響を持つとは考えられなかった。時代に合った数値目標を設定することが必要である。
委員	KG IとKP Iの違いを確認しておきたい。KP Iをどのように想定して、KG Iをどのように考えているか教えてほしい。また、量より質と明記しているのであれば、そのことがわかるようなKG IやKP Iが必要ではないかな。
事務局	資料1P4には最終的なゴールとしてKG Iを示している。KP Iとしては、取組のそれぞれの達成に向けた成果指標として設定できればと思う。
委員	KP Iとして設定するものを想定しているのか。基本方針1から4までがKG Iで、そのKG Iを図るための指標としてKP I

	があるのではないかと。各基本方針を達成することがゴールではなく、最終的なゴールは持続可能な観光地域づくりであると考えてる。
会長	K P I の目標値はどの時点で設定するのか。
事務局	次回の審議会で案を示せればと思う。
会長	量より質と言っているもので、やみくもに数値を上げるのではなく、メリハリが必要だと思う。伸ばすところ、現状維持のところ、両方あって良いと考える。
委員	資料 1 P 4 の「⑤日本人観光客数」は、果たして数値目標になるのか。
会長	実際の統計の取り方などもあるので、実際はそれほど重要な数値目標ではないのかもしれない。
委員	日本人観光客数の目標を達成したのであれば、数値目標から外しても良いのではないかと。
委員	「⑧リピーターの割合」が重要だと思う。
委員	議会などで、観光政策の評価として日本人観光客数の増減が成果として指摘されたりしたことはあるのか。もしあるならば、川越の観光政策では、今後は日本人観光客の増減は成果としないと言い切る準備が必要だと思う。
会長	かつては、観光客数の増加を大きな目標にしていた時代もあった。目標から観光客数を外すことは難しいだろうが、目標とする数値を高くする必要はない。
委員	滞在時間について追加した方が良いと思う。
委員	第 6 章の図について、図の中に中心となる団体がいないため、これではそれぞれが個別に活動してしまう。観光庁では、概念として、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、持続可能な観光地域づくりの指令塔となる法人が DMO であると提唱している。地方公共団体と協議をして、多様な地域の関係者を巻き込み、P D C A

	を回していくことが、DMOの立ち位置となっている。川越市の観光課は部署異動があるが、DMOはなく、観光庁との密接な連携、情報共有により補助金も取りやすい。DMOを中心に据えることが、無駄がなくなるのではないかと考える。
委員	観光振興計画を推進するための関連団体の連携が大切である と考える。ヒエラルキーの形ではなく、ラウンドテーブルの形で、 それぞれが役割分担をして、毎月集まって情報交換をすること で、お互いの協力体制が取れるのではないか。次期計画は川越が 大きく変わることができる機会だと思う。各団体が同じような企 画をして、予算を同じようなことに使っていたが、DMOが主体 となりラウンドテーブルを開くことで、うまく調整できるのでは ないか。京都では実績があり、毎月お互いの情報を共有している ようである。それくらいでないと、観光でのまちづくりは難しい と思う。
会長	全てを行政に任せるのではなく、関連団体が分担して回してい ければと考える。
委員	先ほど川越藩を広域観光としてのエリアとしてはどうかとの 意見があったが、行政を川越市だけではなく、広域行政を今まで 以上に大事にしないと川越藩という括りができない。広域行政の 中で観光を重要なテーマとした部会のようなものを立ち上げる くらいでないと川越藩の括りはできないと思う。
副会長	次期計画の5年間でそれぞれが上手くまとめられれば、この計 画も上手くいくと思う。
事務局	市や観光関連団体の連携は不可欠であると感じた。現在、担当 者レベルではあるが、関連団体と月1回会談を実施して、情報を 共有しているが、更に機能するように工夫したい。まちづくり川 越も会談に加えるのかを踏まえて、もう一度会談のあり方も含め て考える必要があると考えている。やはり、観光関連団体の協力 がなければ観光は上手く行かないので、知恵を使い上手く回せれ ばと思う。
委員	それぞれ、現在の推進体制について課題と感じているので、基 本方針4などに新たに施策として組み込んでみたらどうか。

委員	ビッグデータは数値目標に利用できるのか。
事務局	川越市では入込観光客数を算出するときにビッグデータを利用している。具体的には人流データを使って観光客数を出している。なおかつ、他のビッグデータを活用して、策定方針にもあるように、観光分野のDX化を推進していく必要があると考えている。
委員	入込観光客数の算出にビッグデータを活用しているとのことだが、具体的に算出方法を説明してほしい。
事務局	以前は人間が定点観測を行っていたが、令和2年ごろから「A g o o p」という、ソフトバンク系の業者を使い、GPSを用いて人流の算出をしている。自治体によっては、何人くらいといった算出をしているところもあるが、川越市ではGPSを用いた算出をしている。なお、資料1 P 4の「⑤日本人観光客数」や「⑥外国人観光客数」はA g o o pを使って算出している。
委員	今回の計画には市民も入っていることが重要であると考えている。第6章で市民も入っているが、新しい計画を市民が見てもらえるようなデザインにしてほしい。また、川越市民にとって観光がどれほど重要であるかをしっかり明記してもらえればと思う。
事務局	4 その他 <今後のスケジュールを説明> 5 閉会